

研究用試薬

ヒストファイン

第一抗体

抗 MUM1 モノクローナル抗体 (EAU32) (AT 用)

(動物種 : マウス)

包装 : 50 テスト (6.5mL)

Code : AT1841-1

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地 6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

■本品は、自動染色装置ヒストステイナーAT用の試薬 第一抗体である。

■**特異性及び抗原分布** : MUM1(Multiple myeloma oncogene 1)と特異的に反応する。MUM1(別名 : IRF4)は、免疫細胞の分化に重要な役割を果たすインターフェロン調節転写因子の1つである⁽¹⁾⁽²⁾。正常では、分化後期段階の胚中心B細胞、形質細胞、活性化T細胞、メラノサイトなどの核に発現がみられる⁽³⁾。腫瘍では、多発性骨髄腫、古典的ホジキンリンパ腫やびまん性大細胞型B細胞リンパ腫・非特定型(DLBCL, NOS)の一部などで発現がみられる⁽⁴⁾。MUM1の免疫組織化学染色はCD10、BCL-6と共に、DLBCL, NOSにおいて起源となる細胞(GCB^{*1}/non-GCB^{*2})の分類に使用されている⁽⁵⁾⁽⁶⁾。

注) MUM1が発現している細胞は、核の他に細胞質にも弱～中程度の染色がみられることがある。

*1 GCB : Germinal center B-cell-like(胚中心B細胞様)

*2 non-GCB : non-Germinal center B-cell-like(非胚中心B細胞様)

■クローン名 : EAU32

■抗体のクラス/サブクラス : IgG1

■免疫原 : ヒト MUM1 の 313 個のアミノ酸配列からなるリコンビナントタンパク質

■製法 : 培養上清より得ている。

1. 内容

第一抗体・・・抗 MUM1 モノクローナル抗体(EAU32) (動物種 : マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と 0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1 バイアル中に 6.5mL を含む。

2. 使用目的

組織・細胞中の MUM1 の染色。

研究用としてのみ使用すること。

3. 使用方法

パラフィン包埋切片の免疫組織化学染色及び免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

1) 他の試薬とともに試薬ラック(AT用)にセットし、染色を開始する。

2) 染色終了後、すみやかに2-8℃に保存する。

4. 染色方法の設定

試薬の反応温度、反応時間を下記に設定する。

《タイプ : HRP Heat》

プロトコル名	Dewax	TR	温度(℃)	ブロッキング	試薬名	第一抗体 反応時間(分)	第一抗体 反応温度(℃)
MUM1-AT	Dewax2-AT	TRpH6-AT	101	Buffer	MUM1-AT	20	25

■参考 : 上述の染色条件で良好な染色が得られない場合は、裏面を参照してください。

5. 貯法及び使用上の注意

1. 2-8℃保存。

2. 使用期限はラベルに記載されているので使用前に確認すること。

3. 使用後は速やかに冷蔵保存すること。

4. 異なるロットの試薬や他製品の試薬を混ぜたりしないこと。

6. 取扱い上(危険防止)の注意

1. 使用期限の過ぎた試薬は使用しないこと。
2. 本品に関する化学物質の安全情報は安全データシートを参照すること。
3. 本品を吸い込んだり、眼、口、皮膚、衣類などへの接触を避けること。
4. 本品の廃棄の際には、各施設や地域及び国のルールに従い、適切に廃棄すること。
5. 本品は、動物由来成分を含むので、取扱いに注意が必要である。
6. 本品にはアジ化ナトリウムが含まれている。アジ化ナトリウムは水道管に含まれる銅、鉛との反応によって爆発の危険性があるので、多量の水とともに洗い流すこと。
7. ヒト由来の検体は、感染の恐れがあるので適切な取扱い及び廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術及び操作法に充分習熟しておかなければならない。

7. 参考文献

- (1) Heo MH, et al. IRF4/MUM1 expression is associated with poor survival outcomes in patients with peripheral T-cell lymphoma. J Cancer. 2017 Mar 29;8(6):1018-1024.
- (2) Agnarelli A, et al. IRF4 in multiple myeloma-Biology, disease and therapeutic target. Leuk Res. 2018 Sep;72:52-58.
- (3) Huang W, et al. MUM-1 expression differentiates AITL with HRS-like cells from cHL. Int J Clin Exp Pathol. 2015 Sep 1;8(9):11372-8.
- (4) Natkunam Y, et al. Analysis of MUM1/IRF4 protein expression using tissue microarrays and immunohistochemistry. Mod Pathol. 2001 Jul;14(7):686-94.
- (5) Swerdlow SH, et al. WHO classification of tumor, Tumors of haematopoietic and lymphoid tissues revised 4th Ed. IARC Press. 2017
- (6) Hans CP, et al. Confirmation of the molecular classification of diffuse large B-cell lymphoma by immunohistochemistry using a tissue microarray. Blood. 2004 Jan 1;103(1):275-82.

■参考：組織の固定状況等により、下記のいずれか又は複数の染色条件を変更することで、良好な染色が得られる場合がある。

ただし、組織へのダメージや偽陽性化、偽陰性化が起こるおそれがあるため、研究者自身の責任において至適条件をよく検討すること。

■染色強度をより強くしたい場合

- ・抗原賦活の「TR」を TRpH6-AT から TRtype9-AT または TRtypeN-AT に変更する。
TR-pH6(AT 用)(Code : AT1535-1)の代わりに(TR-pH9(AT 用)(Code : AT1534-1) または TRtypeN-AT(Code : AT1539-1)を用いる。)
- ・抗原賦活の「温度(℃)」を 101℃から 103℃へ上げる。
- ・「第一抗体反応時間(分)」を 20 分から 30 分へ延長する。
- ・「第一抗体反応温度(℃)」を 25℃から 37℃へ上げる。
- ・抗原賦活の処理時間を長くする。
注：「TR」の試薬が、スライド 1 枚の染色に対して 2 テスト分必要になります。
(《タイプ：HRP Heat》の代わりに《タイプ：Special》に登録する。弊社にて登録、設定を行いますのでご連絡ください。)

■染色強度をより弱くしたい場合

- ・抗原賦活の「温度(℃)」を 101℃から 96℃へ下げる。

■内因性ペルオキシダーゼに起因するバックグラウンド染色がみられる場合

- ・「ブロッキング」を Buffer から H2O2-AT に変更する。
(過酸化水素水(AT 用)(Code : AT1524-1)を用いる。)